

項目	主な意見	対応方針・考え
(1) 都市計画マスタープラン全体構想(都市整備方針)	・ 人口減少・少子高齢化への対応が重要とあり、示された取り組みを全て実施すると財政的に問題が生じる。高岡市の強みに磨きがかかるような取り組みに重点化することや、それをどうネットワークさせるかが重要である。 ・ 都市整備方針には、幅広い取り組みが盛り込まれており、複合的に取り組みを進める体制が必要である。 ・ 今後、急激な人口減少により自立が不可能となる自治体が出てくる。公共施設の共有など、高岡市が、とやま呉西圏域や県内においてどうあるべきかなど、市域を超えた連携について検討をすべき。 ・ 歴史・文化を活かした都市づくりの中で、全国でも有数の水濠公園として古城公園の位置付けを検討すべき。 ・ 近年、買い物が困難な高齢者等への様々な民間による支援サービスが出てきている。周辺市街地の拠点において、行政がどのように生活サービスを確保するのか。 ・ 都市整備方針で示した「目指すイメージ」について、これをいかに実現へ結びつけるかが重要であり、具体的に検討すべき。 ・ 従来の都市計画の言葉を引き摺っている部分もあり、使われている言葉が古い。もう少し詳細に解析をすれば、より具体的な表現に変わり面白い計画になる。 ・ 選択と集中で民間活力とあるが、官民一緒に育てていかなければいけない。サウディング型市場調査(市有資産活用の検討にあたり、活用方法について民間事業者と対話を通して広く意見や提案を求めることにより、実現性の高く事業効率のよい公募条件を把握する市場調査)を実施していると、整備、管理という昔ながらの言葉は出てこない。	・ 今回、都市整備方針で、人口減少・少子高齢化を見据え、「原則、市街地は拡大しない」、「インフラは維持管理に重点を移す」「公共交通を利活用する」などの方針を盛り込んだ。 ・ また、高岡市の強みである「歴史・文化」について、都市計画マスタープラン、及び立地適正化計画の中で、その資産を徒歩等でネットワークするなど活かすための取り組みも盛り込んだ。今後、地域別構想等の中でそれらの取り組みが有機的に繋がるよう取り組みを具体化する。 ・ これまで、都市計画マスタープランでは都市計画に係る内容を中心としていたが、今回、上位計画である総合計画で示した「市民創造都市高岡」の実現を目指し、歴史・文化などの様々な分野の取り組みも含めながらテーマ別に横断的に整理した。これに当たり、全庁的な体制により検討を進めている。 ・ 上位計画である県都市計画区域マスタープランにおける富山高岡広域という枠組みや、とやま呉西圏域の連携の動きも踏まえ、各市と意見交換を行っている。地域別構想の中において、市域を超えた視点を持って検討を進める。 ・ 古城公園は、文化財や観光の視点だけではなく、市民に非常に近い公園として利用されており、都心エリアの一部として、文化・交流を図る「古城公園ゾーン」と位置づけた。今後、史跡としての「保存活用」と、都市公園としての「保全活用」の観点から、地域別構想の中で方針を位置付ける。 ・ 立地適正化計画の都市機能誘導区域の検討の中で、各拠点において、どのような都市機能が必要であるかを整理し、現在の充足状況や民間における各種生活支援サービス等も踏まえ、詳細に検討を行う。 ・ イメージの具体化については、都市計画マスタープランの地域別構想や、立地適正化計画の居住誘導区域、都市機能誘導区域の案を示す中で具体的な施策を示したい。 ・ 「配置」、「形成」、「整備」など、都市の成長時代に多く用いられていた用語については、「維持」、「誘導」、「改善」などのように、人口減少時代への移行も踏まえた表現とするように留意したい。また、地域別の現況・課題を整理する中で、各地域の公共施設や公共交通の充足状況についても詳細に確認する。 ・ 民間に全てを委ねるのではなく、民間の意向や市場の動向も踏まえつつ行政側も柔軟に対応する、といった事業の進め方を位置づけるほか、不足する都市機能の誘導にあたっては、事業者の意向等を把握し、実態に即した形で計画づくりを行う。

項目	主な意見	対応方針・考え
	- 生活圏の形成という言葉もあるが、形成はこれまでもできなかった。配置・誘導も10年後までにできるのか。新しい言葉を見ると面白いものになる。 - 公園については、平成28年度に国土交通省が公園のあり方研究会を開催しており、Park-PFIやサウンディング型市場調査等が実施されるなど公園を徹底的に使うことを示している。人口減少・少子高齢化の中で全ての公園は整備できない。どこかの公園をつくるのなら、それによりその他落ち込んでいたものをどう変えて行くのか。 「安全・安心で快適に暮らせる都市づくり」の中で“地域力”がでてくるが、これは横断的に様々な分野に関係してくるのではないか。 産業（働く場）の視点は、まず何よりも重要であると考えており、太平洋側の工業団地と共創するため、インターチェンジからもアクセスが良く、大手企業も進出できるような大規模な工業団地が必要である。 - 道路整備方針図に関して、戦略的道路は拠点間を結ぶ道路で必要性は示せるが、どのように実現するのかは国県の勉強会で議論して進めることが重要である。	- 地域生活圏の中に地域生活拠点を形成することとしている。立地適正化計画の中で、拠点ごとに都市機能誘導区域を設定し、そこに必要な都市機能を検討するほか、公共施設の再編の検討にあたってこの区域を勘案したい。なお、両計画の目標年次は概ね20年後の平成47年としているが、その後も含めた長い時間がかかる取り組みであると考えている。 - 長期未着手公園等の見直しを進める中で、市民・企業・行政とも連携し、人口減少の中における公園に対する様々な需要も把握しながら、その利活用についての方向性を位置づける。 - 地域力に関しては、実現化方策の推進体制等に係る事項の中で位置づける。なお、身近な地域において安全で安心して暮らせるための地域の見守り等に関する内容として、この項で位置づけたもの。 働く場の確保のため、工業団地の確保は重要であり、現在、戸出西部金屋地区における産業団地の造成を進めている。一方、インターチェンジと中心市街地を10分圏域で結ぶ考えのもと、戦略的道路の構想の具体化も検討している。産業は高岡の特徴なので、全体構想でも打ち出したところであり、地域別構想の中でも位置付ける。 - 今後とも、事業化に向け、国県とともに検討を進める。
(2) 立地適正化計画の基本的考え方	- 近隣の金沢市など他都市のまちづくりの事例をみても、ハード整備より、人づくりは重要である。市民全員がまちづくりの主役として議論できる場づくりや、意見を集約して施策に反映することが必要。 - 総合計画に示された市全体の将来像のうち、まちづくりに関する部分が都市計画マスタープランと立地適正化計画で示されることとなる。様々な分野にわたり横断的、かつ連携して取り組むことが重要であるが、その中で重点的に何に取り組むのかを明確にすべき。 - 高岡市が目指すもの、そのビジョンを明確にし、その取り組みを具体的に示し、ハード、ソフトに関わらず私たちの世代も含め色々な世代ががワクワクできる計画にすべき。	- 博労のまちなか再構築事業や、高岡駅前東地区における取り組みのほか、熱中寺子屋やリノベーションスクールなどあらゆる機会にそうした声に耳を傾け、積極的にそうしたアイデアが実現するよう市としても努力したい。人づくりについては、今後、お示しする実現化方策の中で、市民、事業者、市のこの3者が役割分担のもと、どのような役割を果たしていくかを記載する。 - 今後、検討する都市計画マスタープランの地域別構想、及び立地適正化計画の都市機能誘導区域や居住誘導区域の設定の中での検討も含め、重点的な取り組みにメリハリをつけて示していきたい。 - いかに市民とビジョンを共有し、今後のまちづくりを一緒になって考えていけるかが重要であると考えており、今後、誘導区域や施策についての検討や、都市計画マスタープランの地域別構想の中で、より市民にも分かりやすく、夢を描けるような計画としたい。